

周防大島の話題



▲宇宙桜の植樹を行う参加者

宇宙神代桜を植樹

2月1日、瀬戸公園で宇宙神代桜の植樹が行われました。この桜の苗木は、2008年から国際宇宙ステーションに8カ月半滞在し、地上に帰還した種から芽を出した宇宙桜の子桜に当たります。また、ローマ法王に贈呈された山高神代桜の姉妹に当たる苗木も植樹されました。

大島の玄関口を桜の名所にしたいという周防大島・山高神代桜の会とNPO法人ふるさとづくりのん太の会が、山梨県北杜市で桜を育てる三枝基治さんから、大島大橋の貨物船衝突事故に負けるなどという復興へのエールを込めて、苗木を分けてもらったものです。

地域おこし協力隊員が着任しました

地域の水産業や漁村の活性化に取り組んでいく、地域おこし協力隊員がきまり、2月3日、大島庁舎において委嘱状の交付式が行われました。

着任したのは、大阪府出身の東純一^{ひがし じゆんいち}さんで、主に水産業や水産物の魅力発信、魚食普及、商品開発、販路開拓、地域活性化につながる事業・イベント企画などの業務に取り組みます。

東さんは、「今までの伝統に則った中での新しい動きができれば、自分の中でもすごく誇れるものになる」と意気込みを語りました。



▲椎木町長から委嘱状を受け取る東さん

普段から災害に備えましょう

2月9日、山口県防災センターにて、「最近の大規模災害に学ぶ～目からウロコの防災新常識～」と題し、防災システム研究所 所長 山村武彦氏による防災講演会が行われました。

講演の中では、家や職場などで地震の揺れを感じたときに、一時的に退避できる「安全ゾーン（ガラスの飛散や転倒落下物のない閉じ込められないスペース）」を決めておくこと、普段から小さな揺れで行動する癖をつけておくことが大事との話がありました。

また、今までの災害に備えた準備や訓練も形式的になってはいないかと警鐘を鳴らし、「明日震度6強の地震が来るとして、年に1度は真剣に準備をしてほしい」と語りかけました。



◀「持ち出すものは命だけ」「その場に合わせた命を守る行動をとることが大事」と話す山村氏

